

シグマ委員会（運営委）幹事会議事録

日 時：昭和43年4月17（木）1：30PM～5：00PM

場 所：原研東海研 V.d.G. 11号室

出席者：百田，飯島，岩城，桂木，五十嵐（田中）

議 事

1 43年度実行予算

4月11日（木）東海研において行なわれた幹事会準備会の討議をもとに主査より経過説明があった。

6月1日付で核データ研究室が発足する見通しであるが、今年度は四囲の情勢が厳しいことから、とくに予算面での活路が検討された。

とくに議論された問題は以下のものである。

- 動燃事業団から特定テーマのプロジェクトに対し、委託の形で資金が出るのではないかという問（岩城委員）については、可能性が考えられ、目下交渉中であるとのことであった。（桂木委員）
- その際、解決しておくべき点については、受入体制の点では問題は一応ないが、①プログラムを作る段階、②データのプロダクションの段階の2段階のうち①のばあいは、所有及び発表の権利の所在等検討すべき問題が多いので解決に時間を要する。
現時点で考えるかぎり、①は、委員会内部で処理した方が、トラブルがおこらないだろう。
②に関しては、個人的打診の域を出ないが、outputをそっくり引き渡さないで、「これこれのデータを作成した」という報告書を作成するだけでよいということだった。このプロダクションの分野で資金導入をするのが望ましい。ただし、委員会という組織には動燃は金を出さないらしい。契約の対象が明確でないため、この意味では核データ研究室が発足するならば、この研究室に金をつけることになるのがよい。
- ENDF/Bの断面積のデータプロットにも金を出そうという話はある。この件は積算されていないので、別途要求ということになる。500万円を出

したが、多すぎるといわれ、200万円にした。(桂木委員)

交渉の窓口を核設計研にするか核データ研にするかという点については、核データ研の方がよいのではないかという意見(桂木委員)であった。下交渉はすべて桂木委員に一任し、ある程度固まったら主査が出る。200万円入手可能となったら、人件費を含んだものとして一括会社に出すということになった。

なお、これと併行して、ENDF/Bのretrieval サブルーチンをCCDNに打診することも確認された。

(シグマ委員会の役割り——43年度実行計画と関連して)

動燃が発足したという新事態において、シグマ委員会に対するとくに外部の方の期待は如何なるところにあるかという点で大略以下の議論があった。

——高速炉をしている人たちが、実験炉の段階では現在手持ちのデータで何とか賄えるが、大型炉となると型さえきめにくい状態なので、さしずめPuデータをそれも1セットが無理ならば2セットでよいから整備してくれといわれている。(飯島委員)

——炉定数グループとしては、ENDF/Bのデータの処理をして、炉定数にもってゆくまでは考えているが、cross sectionまでするのは、manpowerの点で不可能であり、必要とされる箇所で独自になさっていただくしかないという考えである。(桂木委員)

——Pu-239の話はサクレーのJolyとハーウェルのRaeがINDCの席ですることになったようだ。この問題は測定までさかのぼらなくてはならないのではないか。(主査)

——NAIGとしては当面人数も限られているのでPuに焦点を絞ってゆくつもりである。(飯島委員)

——炉定数としては、重いエレメント数種についてのを原研からの委員が受けもち、その他の軽いのを外部委員に担当していただく建前である。以前作成したMUFTデータの修正もしなくてはならない。

- 原型炉の第1次設計が始まると、今のデータではいけないということがもっと具体的に認識されると思う。しかし要望を委員会の場でこなしてゆくというのは大へんきつい。(桂木委員)
- 逆にメーカーからいわせれば委員会でこそしてほしいということではないか。(飯島委員)
- 委員会で作業するということではペースがうんと落ちる。できたもののチェックも含めると大へんな日数を要する。そうなるとやはり「ほしい人が自分で作る」ということになるのではないか。
- MAPI はやはり man-power の点でやりにくい。サーマルの Pu は少しいじっているが、ファーストの方には手がまわりかねている。委員会が ENDF/B でも処理してくれることを期待する。(岩城委員)
- ~~とくに UK ライブラリは、アグリーメントの義務違反ということがあるので~~
~~検討を要するけれども、いずれ ENDF/B^{に基づくライブラリ}ともう^{PB-210 基づく}別のセットもリリース~~
~~できると思う。(桂木委員)~~
- 日本のばあい測定の方の活動が大へんおこなわれているから外国からよい資料を入手するというのも委員会の重要な仕事になる。とりあえず Pu データの件は NAIG で検討していただけるということであり、もし、原研の核Ⅱあたりで調べてみようという人がいたら一緒にするとよい。(主査)
- その他目標の一つにするとよいのは、中重核のキャプチャーの問題がある。とくに Fe, Mo, Ni あたりがよいだろう。(飯島委員)
- 委員会としては、① EANDC にリクエストを出す、② 委員会の活動としてこのあたりのデータの評価があると思う。評価は核データ・グループにリクエストしてよいのか。(主査)
- 現実の炉の設計の際にデータによってどのくらいの影響が出てくるかを掴めないとかどのくらいデータがほしいのかわからないのではないか。(岩城委員)

設計をしている人には cross section まで手がまわらないし、cross section のわかる人は実際に使うとどうなるかがよくわからない。この点で桂木さんか、日立の山本さんあたりに話をしてもらうことを企画するのもよい。(飯島委員)

以上の討議のうち、43年度の実行予算は、引き縮めの状況なので、原則として計算依頼費、旅費ともにグループ別に以下のように分割してゆくことが提案された。

(計算移頼費)

核データ・グループ	250万円
	(カーボン評価, 14 MeV 評価を含む)
熱化グループ	200万円
炉定数グループ	260万円
	<hr/>
	計710万円
	(26万円保留)

(旅費)

運営費	25万円
核データG	15万円
熱化G	15万円
炉定数G	20万円
	<hr/>
	75万円

◎次回運営委員会は5月6日(月) 11:00 am~17:00 pm

東京において開催の予定